

私のふるさと 再 発 見

民話で触れるふるさとの歴史

ほんわかした温かさを 伝えていきたい



野田や関宿の民話の読み聞かせを続けている三輪田良子さん（三ツ堀在住）。2回のラジオ番組出演で、全国にも発信しました。

野田や関宿の地域に残る民話を、市内の小学校や福祉施設などを中心に読み聞かせを行っている三輪田良子さん。三輪田さんは、教育関係の職場に勤めていたころ、図書室で関宿の民話に触れ、そのほんわかとした温かみのある昔話に強く興味を持って読むようになりました。県立関宿城博物館の開館10周年のとき、当時の館長に依頼され、来場者を対象に、関宿に残る民話の読み聞かせを1年間続けることになり、それが朗読ボランティアのスタートとなりました。

平成16年には地元の郷土史研究家金子勝一氏の著「関宿の昔話」を基に、民話13編を収録した朗読CD「関宿の民話をたずねて」を自主制作。市内の公民館やホールで朗読コンサートも行いました。

また、ラジオ番組出演や、新聞記事で三輪田さんの民話の朗読活動が紹介されたこともあり、今でもリクエストを受けて市内各所で読み聞かせのボランティア

を行っています。

現在110話ほどのレパートリーがありますが、朗読の台本は、抑揚やアクセントなどを書き入れたご自身手書きのもので、小学生ならば学年に合わせて話を選んだり、また時季によって季節感のあるものを選ぶなど工夫をしています。

また、子どもにも分かりやすいように、



読み聞かせで使っている手書きの台本



小学校や福祉施設などで読み聞かせを定期的に行っている